高浜 タカハマ TAKAHAMA

https://www.city.chiba.jp/school/jhs/042/index.html

令和７年４月１５日（火）
学校だより　第１号
千葉市立高浜中学校

新入学・進級おめでとうございます

校　　長

高浜中学校へのご入学おめでとうございます。2 年生・3 年生へのご進級おめでとうございます。教職員一同心よりお待ちしておりました。本校は生徒 124 名（1 年生 40 名、2 年生 50 名 3 年生 34 名）を迎え、教職員 27 名（非常勤(毎日勤務のない)も含む）により教育活動を始めました。保護者の皆様とともに、お子様の成長を目指した教育活動を展開してまいります。令和 7 年度もどうぞよろしくお願いいたします。

教職員のご紹介

授業そして生活諸活動に携わる教職員をご紹介いたします。ここでは所属と氏名及び担当教科を掲載します。詳しい教職員の紹介につきましては、学年保護者会や各学年からのお便りなどでいたします。教職員はそれぞれの専門分野はもちろん、得意な領域等を生かし、これからの時代を生き抜いていく力が身に付くよう、授業そして学校生活全般を通して、お子様の指導にあたってまいります。今後の学校便りなどで、各教職員の教科以外の担当もお知らせいたします。ご相談は学級担任や学年主任・学年職員以外でも窓口がありますことをお見知りおきください。どうぞよろしくお願いいたします。

＜令和 7 年度　高浜中学校　教職員＞

教職員の個人名につきましては、HP 上での公開はしておりません。

着任のごあいさつ「大切にしたい言葉」

校　　長

4 月に着任いたしました校長の（HP 上では非掲載）です。どうぞよろしくお願いいたします。本校は、千葉市内で一番広い校地（グラウンド）を有する一方で、全校生徒が 124 名という小規模の学校です。活動集団が小さい、部活動が少ないという面もございますが、その分全教職員が生徒一人一人をよく知り、一人一人の生徒に目を向け、手をかけられるメリットが大きい学校です。新入学の生徒の保護者様はもちろん、2・3 年生の生徒の保護者の皆様におかれましては、より一層の教育活動を実践すべくご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

私は校長として、着任初日教職員に次のことを話しました。それは、「愛語」のあふれる学校作りをしたいということです。この言葉にはどのような意味があるのか、皆さん想像がつきますか？

この言葉は古典に登場します。文字通り「愛の言葉」ですが、古典ではこの言葉の前に、次のような感情を表す言葉が記されています。「怒（いか）り」と「傲慢（ごうまん）」です。これらの感情は、どういった場面で現れると思いますか？　これは相手に尊敬の気持ちをもっていない（簡単に言うと相手を大切にしていない）と生まれるものではないでしょうか。

ですから「周りの人の考えや行動を認め、もちろん自分自身の考えや行動も大切に、お互いに接していくことの一つとして『愛語』を発していったらいかがでしょう」と 4 月 1 日の着任時に教職員に話しました。この話は、始業式においても、２・３年生の皆さんにも同様にお話をしました。「言葉はその発する人そのものになりませんか？」とも伝えました。自分と相手とは考えや行動が異なるもの、そのことを考えて生活することで、前述しました「怒り」や「傲慢」によって相手を傷つけることのない学校生活が送れると考えています。

保護者の皆様におかれましてもお見知りおきいただくとともに、生徒たちの成長を目指して、学校―保護者―地域の連携にご協力を賜りますよう、お願いいたします。

＜学校だより「高浜ﾀｶﾊﾏ TAKAHAMA」に込めた思い＞

学校だよりの題名を変えました。題名の変更を考えたことには二つ理由があります。一つ目はわが街「高浜」に住むことの誇り、それは地域、学校を好きでいてくれることの期待を込めています。二つ目はグローバル社会を生きていく生徒の皆さんには、「たかはま」の名（音）も好きでいてほしいという願いを込めています。なお、本校は令和７・８年度と千葉市教育委員会の研究指定「国際理解教育」を受け、教育活動を邁進してまいります。